



のびるほどっ子!

ほっとな未来へ 3C!

令和5年9月30日

横浜市立保土ヶ谷小学校

学校長 宮生 和郎



季節の移り変わりとともに感じる大自然の力

校長 宮生 和郎

9月8日の10時過ぎ、正門前のトチノキが突然倒れるという事が起きました。その日は台風の影響で時折吹く突風が街路樹を大きく揺らしてしましたので、風雨に耐え切れなかったものと思われます。5年生が宿泊学習の翌日で中休みの時間帯に登校することになっていたのですが、あと10分遅かったらどうなっていたのかとぞっとしました。歩道側にも倒れていたのでは通行の方がいなくて本当に幸いでした。何事もなかったから言えることですが、もしかすると子どもたちの登下校やまちの人たちが通るのをいつも見守っていたトチノキは子



どもたちやまちの人たちが通らない時間帯を選んで力尽きたのかもかもしれません。科学的根拠は弱いですが、優しい言葉をかけられて育った植物はネガティブな言葉をかけられて育った植物よりもよい成長をするというような研究が以前話題になったことがあります。そもそも型は違っても同じDNAをもっている生命体であり、人間よりも遥か昔から生命をつないできた植物には、地球上の



あらゆる生き物を目に見えないところでつなぎ、支え、包容する力をもっているのではないかと感じさせられる出来事でした。春には鮮やかな赤色の花を咲かせ、夏には大きな葉が日陰をつくってくれるなど季節の移り変わりを感じさせる象徴的な大木がなくなったのはとても寂しいことですが、伐採に来た方たちの話によるとまだ木は生きていたとのことですので、新たな芽が出ていつの日か子どもたちを守ってくれる大樹になることを期待したいと思います。9月25日の朝会では正門近くに生えている百日紅（サルスベリ）や秋桜（コスモス）の紹介をし、多くの植物が色とりどりの花や実をつけるので、季節の移り変わりを感じてほしいという話をしました。子どもたちには普段はなかなか目を向けない植物に関心をもつことで生命のつながりや大自然の力を感じてほしいと思います。



さて、10月8日、9日、3年ぶりに開催される保土ヶ谷宿場まつりに、本校の3年生と6年生の子どもたちが保土ヶ谷のまちを盛り上げたいと様々な企画をたて、フリーマーケットや歴史クイズ、歴史射的、昔遊びなどのブースやけん玉チームのステージ発表で参加する予定です。1か月前から始まっている6年生が手作りしたスタンプラリーも大変好評だそうで、次々と増刷されていると聞きました。また、先日放映されたYCVやYouTubeでの発表への宣伝では子どもたちの並々ならぬ意気込みが伝わってきました。ぜひ、多くの保護者や地域の皆様にお越しいただき、子どもたちとともに「保土ヶ谷宿場まつり」を盛り上げていければ幸いです。